

長柄拾遺物語

～父は長柄の人柱。鳴かすば雉子も射られざらまし～

長柄界隈は孝徳天皇の難波長柄豊碓宮の旧址という伝説があり、古代から栄えて国分寺も置かれました。陸運の亀岡街道、水運の淀川とも面し、江戸時代は数多くの旅人が行き交いました。太平10年(中国年号。1030年)在銘の朝鮮銅鐘を有している鶴満寺や、謎の由緒を持つ鶯塚、義人・松野登十郎の墓から、人柱伝説で有名な長柄橋まで、知られざる長柄物語をどうぞ。



淀川

大阪の「母なる川」として大阪の歴史、文化、風土を育んできました。その反面、「暴れ川」として知られ、洪水のたびに沿岸に大きな被害をもたらしました。古くから瀬戸内海～淀川～琵琶湖を結び、人や物資を運んだ重要な交通路で、沿岸には船宿が発達して賑わいましたが、明治以降は鉄道の発達や道路整備が進み、水運は衰退していきました。現在の淀川は飲料水、工業用水の水源として利用されています。

4 鶴満寺(かくまんじ)

奈良時代に大和で創建され、宝暦3年(1753)に当時の豪商・上田宗右衛門の発願によって現在地に移転してきたといわれています。桜の名所で有名でしたが、明治18年(1885)の淀川大洪水で枯死しています。鶴満寺の釣鐘は太平10年(中国年号。1030年)在銘の朝鮮銅鐘で、高麗時代初期の名品として国指定の重要文化財です。渡来の経緯は不明ですが、長州藩の土木工事に発見され、寄進されました。他にも鎌倉時代末の作という千手観音画像(大阪府有形文化財)があります。上方落語「鶴満寺」の舞台としても有名です。

5 鶯塚

貞享3年(1686)在銘の五輪塔があります。かつては墳丘だったと考えられていますが、誰のものかは不明です。地元では「長柄の長者の娘が死んで、鶯が悲しみの余りに後を追うように死んだので塚を作った」「孝徳天皇の女官の鶯式部の墓として作られた」「元旦になると鶯が必ず当地に来て春を告げた事から名づけられた」といった伝説があります。

6 長柄八幡宮

永仁4年(1296)に石清水八幡宮から勧請して祀られ、慶長15年(1610)に片桐且元が本殿・幣殿・拜殿を改築したといわれています。境内備えつけの専用の櫓で奉納される地車囃子は、「長柄流」「キタの流派」の祖といわれ、大坂城完成を祝って奉納したさいは、秀吉が大いに喜んだといわれています。夏祭では獅子舞が出ますが、昼間は氏地を廻り、夜間は摂州地車囃子奉納にあわせて、傘踊りをしながら境内を練り歩きます。

7 光明寺

永正14年(1517)に蓮如上人の直弟子の蓮師が建立したと伝わっています。親の仇を討った後に無常を悟って仏門に入ったという菅公一門の末裔・菅九郎左衛門が2代目住職を継承したので「九郎左衛門道場」といわれ、その後、無碍光山光明寺となりました。境内に義人・松野登十郎の墓があります。安永6年(1777)江戸に生まれた松野登十郎は父相代々、田安家に仕えていましたが、文政3年(1820)、南長柄の田安家領地代官を命じられました。ところが翌年、南長柄一帯が大飢饉となり、農民の苦境を見かねた登十郎は、田安家に使者を送って年貢の軽減を願い出します。しかし田安家からは拒絶され、登十郎は上申書を残して代官屋敷で割腹しました。享年48歳でしたが、「死に臨みて容儀端厳、一糸一毫たりとも乱れず」と古書に記載されています。その後、松野家は取潰しになりますが、年貢は3年間免除され、領民は救済されました。

8 長柄橋

氾濫する旧淀川の人柱になった長柄長者の悲話が伝わり、長者の娘が歌った「物いじ父は長柄の人柱 鳴かすば雉子も射られざらまし」はつとに有名です。「日本後紀」によると弘仁3年(812)に造橋使が派遣されて長柄橋の工事が行われたと記載されています。しかし仁寿3年(853)には橋は廃絶しており、渡船が設けられました。「難波なる ながらの橋もつくるなり今は我身を 何にととへん」(いせ)「あしまよりみゆるながらの 橋はしら 昔の跡のしるべなりけり」(藤原清忠)「春の日の ながらの 濱に 船とめていつれか橋とへど答へぬ」(惠慶法師)など、数々の和歌が伝わっています。現在の長柄橋は、昭和58年(1983)に完成したのですが、近代的なアーチが千年の時の流れを感じさせます。

9 慰霊観音像

旧長柄橋の橋脚に「旧長柄橋弾痕」という銘板がはめられています。昭和20年(1945)の空襲で爆撃から逃れようと大勢の人々が橋下に避難しましたが、その橋に爆弾が落とされて落橋。さらに機銃掃射が浴びせられ、なんの罪もない一般市民約400人が殺されました。その弾痕が第3、第4橋脚に残っています。

10 天神橋筋商店街

1丁目から7丁目まで約2.6キロ、南北に続く「日本一長い商店街」です。歴史は古く、平安時代に出来た大阪天満宮の門前市がルーツといわれています。1丁目から2丁目は今でも門前町の雰囲気を残し、3丁目、4丁目は下町情緒が溢れ、5丁目から7丁目は新旧の店で活気にあふれています。吉本興業発祥の地でもあり、大阪の芸能文化にも多大な影響を与えました。

亀岡街道

起点は高麗橋で、大阪天満宮の西から北へ上がり、長柄から吹田、亀岡へ向かいます。かつては荷馬や旅人の往来で賑わいました。現在の天神橋筋商店街はこの街道に沿って発展しました。江戸時代は街道東側の寺町を挟んで与力町、同心町が設けられ、東町・西町両奉行所の役人の居住地でした。

1 国分寺

齊明天皇が弟の孝徳天皇の菩提を祈るために、齊明天皇5年(659)、僧・道昭に命じて長柄豊碓宮旧址に一字を建立して「長柄寺」と称したのが始まりといわれています。天平13年(741)に聖武天皇によって「一國一寺」の国分寺創建の詔が公布されると「摂津之國国分寺」(金光明四天王護國之寺)となりました。当時は国分寺は僧20人、国分尼寺は尼僧10人を置き、国庁と並んで、その国最大の建築物であるのが常でした(大和国の東大寺、法華寺は全国の国分寺、国分尼寺の総本山です)。大坂夏の陣や大阪大空襲の戦災に遭い、現在の昭和金堂は昭和40年(1965)に落慶されたものです。

2 南長柄八幡宮

長柄は近世から明治初期にかけては北長柄村と南長柄村とに分かれていて、当宮は南長柄の氏神です。明治末までは現在の鶴満寺公園にあったと伝えられています。公園東側は現在は団地ですが、以前はここに土堤があり、そこを境に東側は国分寺村領でした。本来は長柄砂州の北部東岸(水上交通の要所)にあって、川に向かって拝む神社だったと推測されています。

3 淀川天神社

国分寺村の氏神です。江戸中期発行の「浪華往古図」にも記載され、石碑には天平10年(738)、行基が訪れた際に開拓の守護神として天穂日命を祀って「天神社」と称したとあります。現在の神殿(瓦葺流造)は明治43年(1910)に中島村(東淀川区)の社殿を買ったもので、享保年間(1716～1736)の建築と推測されています。他にも明和(1764～1772)寛政(1789～1801)期の石燈籠や文化8年(1811)の石狛犬などがあります。

【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】 大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内) 「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または **大阪あそ歩** でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。



有名なことわざの裏にこんな哀しいお話があったのですね。昔の橋作りの困難もうかがえます。

川沿いの広い空に映えるモダンな建物。

広々とした境内も大きな木々が囲んでまさに「鎮守の森」?

伝統的な繊細な細工と斬新なデザインが一緒に並んでいます。

芸術作品のような木型が並んだ壁はまるでギャラリー。

木の古本を取り囲む朱鳥居と玉垣は歴史から取り残された小さな島のような。いくつもの伝説にふさわしく女性らしい可憐な佇まいです。

なぜか背中を向けてお地藏さん。杯しよ...

江戸時代には鶴が築いて評判に。

黄色い壁と赤い鐘楼が目立ちます。

落語でおなじみ「鶴満寺」。今の整然とした境内からはここが花見客が賑わっていたなんて想像できませんね。

これは「神木」では?! 迫力のあるイチョウが鳥居の前に。

切ない話、楽しい話、様々な物語を始める旅の始まり。